

# モモ「あかつき」の核障害多発要因

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

部門名 果樹—モモ—栽培

担当者 安達義輝・桑名篤・三田村諭・南春菜・渡邊善仁・増子俊明

## I 新技術の解説

### 1 要旨

本県のモモ主力品種である「あかつき」は、収穫果実には核縫合面の割裂等の核障害が認められ、これが生産現場における収穫前生理落果や流通現場における日持ち性低下等の原因となっている。要因解析の結果、核縫合面の割裂は、硬核期頃の多雨による急激な果実肥大によって増加する傾向であった。

- (1) 核障害の推移(平成2000～2017年)は、満開後30日(調査開始)に核頂部に亀裂が約40%確認され、その一部では硬核期に核縫合面の割裂を伴いながら微増し、収穫果において50%程度確認された(図1)。
- (2) 核頂部亀裂は満開後30日にはすでに発生が確認されることから、果実発育初期に要因があると考えられた(図1)。
- (3) 収穫果における核障害の発生パターンは、概ね4つに分類された(表1)。核頂部亀裂や核縫合面割裂は単独発生または併発し、核縫合面割裂の果実は割裂部にカルスが形成され、胚へとつながる維管束に褐変を生じ、高い頻度で胚障害を併発していた(図2c)。
- (4) 核縫合面割裂は硬核開始後に発生が始まり、果実肥大曲線に並行して増加することから、果実肥大との関連が深いと考えられた(図1)。果形比に着目すると、側径の肥大が大きい果実は縫合面割裂の発生が多い(図3)。硬核期以降の急激な果実肥大要因として降水量に着目すると、硬核期の積算降水量の増加に伴って発生率が増加する傾向であった(図4)。

### 2 期待される効果

- (1) 核縫合面割裂の多発要因が明らかになり、軽減対策の技術開発に向けた基礎資料となる。

### 3 適用範囲

本県のモモ産地

### 4 普及上の留意点

- (1) 本情報は、中生品種「あかつき」の調査データに基づくものである。
- (2) 硬核期頃の急激な果実肥大は核縫合面の割裂を促すおそれがあるため、硬核期頃は過度な摘果をできるだけ控える。

## II 具体的データ等

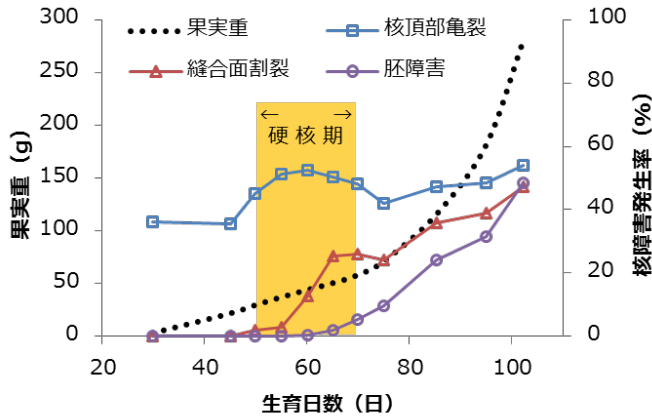


表1 モモ「あかつき」の核障害発生区分 (収穫時)

区分	核頂部亀裂	核縫合面割裂	胚障害
A	○	×	-
B	○	○	○
C	×	○	○
D	×	×	-

※ ○：発生、×：未発生、-：不明瞭

図1 モモ「あかつき」の核障害発生の推移

平年：農業総合センター果樹研究所 2000～2017年



a. 正常

b. 未割裂  
核縫合面に褐変

c. 割裂  
核縫合面にカルスを生じる

図2 モモ「あかつき」核縫合面割裂の程度

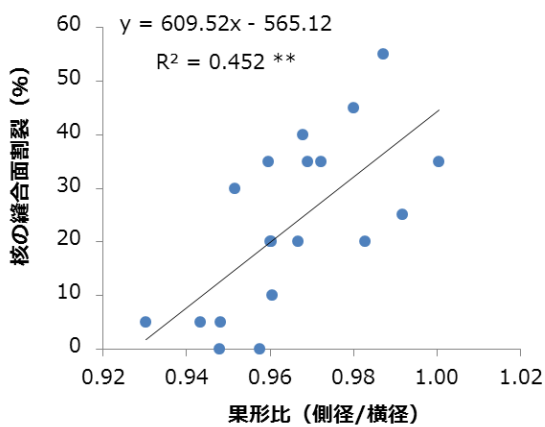


図3 満開後75日の核縫合面割裂と果形比  
調査期間：2000～2018年  
満開後75日は、硬核期終了～修正摘果前の時期

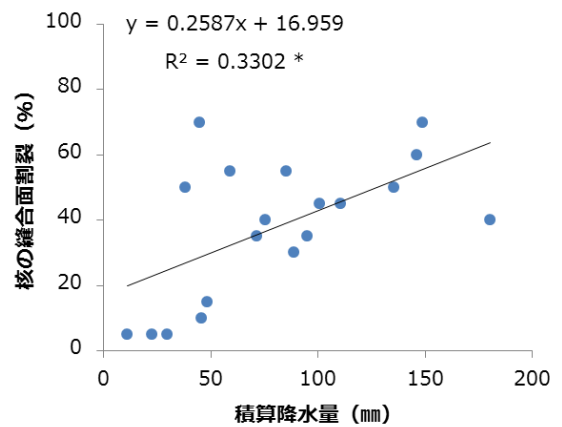


図4 満開後95日の核縫合面割裂と硬核期の積算降水量  
調査期間：2000～2018年  
満開後95日は収穫直前、硬核期は硬核始～硬核終の時期

## III その他

### 1 執筆者

安達義輝

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度～30年度
- (2) 研究課題名 果樹の省力・高品質生産技術体系の確立

### 3 主な参考文献・資料

- (1) モモ「核割れの原因と対策」農業技術体系 果樹編 第6巻 (2001)